

有所見者の疾患の早期発見可能性に関する調査の実施状況について

令和6年 10 月に開催された「第1回石綿読影の精度確保等に関する検討会」で取りまとめられた「令和7年度以降の健康管理について」において、「石綿読影の精度に係る調査」の参加自治体に居住する住民に関しては、同調査の枠組みにおいて既存検診(胸部 X 線検査)を利用したフォローを行うこと、当該自治体からの転居者等については、「有所見者の疾患の早期発見可能性に関する調査」(以降「有所見者調査」という。)を継続し、フォローを行うこととされた。

令和7年度有所見者調査の実施状況は以下のとおりである。

1. 調査の周知

読影調査に参加した 28 自治体等に有所見者調査の説明書を提供し、読影調査参加者を中心に住民へ幅広く情報提供を行った。また、過去に転居者調査に参加し、石綿関連所見を有する者に個別に電話等で有所見者調査の案内を行った。

2. 有所見者調査の実施状況

	令和7年度			
	合計	石綿ばく露が不明な集団	石綿ばく露が推定される集団	石綿大量ばく露が推定される集団
参加者	13 (100.0)	8 (100.0)	0 (-)	5 (100.0)
①胸水貯留	0 (0.0)	0 (0.0)	-	0 (0.0)
②胸膜プラーク	5 (38.5)	0 (0.0)	-	5 (100.0)
③びまん性胸膜肥厚	0 (0.0)	0 (0.0)	-	0 (0.0)
④肺野・縦隔の腫瘤状陰影(肺がん等)	0 (0.0)	0 (0.0)	-	0 (0.0)
⑤肺線維化所見(不整形陰影)	0 (0.0)	0 (0.0)	-	0 (0.0)
⑥その他の所見	1 (7.7)	1 (12.5)	-	0 (0.0)

注)

石綿ばく露が不明：石綿関連所見が胸部X線検査で確認できない場合

石綿のばく露が推定される：石綿関連所見が胸部X線検査で確認できる場合

石綿の大量ばく露が推定される：胸膜プラークが胸部X線検査で確認できる場合(広範囲プラーク)

()内は参加者に対する割合

3. 調査結果

参加者のうち、医療の介入が必要と判断された者はいなかった。